

EPA による受け入れ後の看護・介護分野での研修の現状

外国人看護・介護労働者との共生社会を考えるー

日本福祉大学大学院 伊藤 鏡(8090)

キーワード；EPA,外国人看護・介護労働者、専門職

1. 研究目的

アジア諸国との経済連携協定（EPA）により、看護師・介護福祉士の「安価な労働力」としてではなく、「専門職」候補者としての受け入れが始まった。受け入れにあたって固有の問題（個別経営にとっての費用対効果）が生じ、受け入れ現場には戸惑いが見られるが、同時に、受け入れする以上「成功」を目指す創意工夫が見られることも必然である。「失敗」は許されないが「失敗」が運命づけられているかに見える矛盾した現状の中で、受け入れ先の病院・施設と「候補者」が、受け入れの成功に向けてどのような変化を遂げているかを調べることが、研究の目的である。

今回の看護師・介護福祉士の受け入れによって、日本の移民受け入れの新段階が始まった。その成功・失敗は、直接的には候補者の国家試験合格の多寡によるが、より本質的には日本の看護・介護の現場に受け入れの素地ができるか否かによる。既に3回行われている看護師国家試験の合格者総数は19名と少ないが、介護福祉士の国家試験は来年が初めての試験になる。現時点で合格者の多寡によって成功・失敗をうんぬんすることはできないが、受け入れの素地ができたかの検討は成し得ることであるし、緊急に求められていることでもある。

2. 研究の視点および方法

研究方法

(1) 文献研究；参考文献および先行研究の調査，収集

(2) 半構造化インタビュー

目的；受け入れ先の実態を把握する。

対象；EPA 受け入れ病院・施設の業務部長，看護部長，指導担当者および候補者本人

EPA による受け入れ；サンライフ彦坂，こうほうえん，さくら大樹，サンタマリア

ア，木沢記念病院，名古屋第二赤十字病院，絃仁病院，聖霊病院

EPA によらない受け入れ；サンライフ彦坂，天竜厚生会

質問項目；受け入れの経緯，マッチングの様子，受け入れ準備，受け入れ費

用, 受け入れ計画, 受け入れの様子, 仕事の内容, 日本語学習を含めた日常生活, システムの理解度, 候補者の来日目的, 候補者の悩み, コミュニケーションの様子, 今後の受け入れ

3. 倫理的配慮

半構造化インタビューについて研究の主旨と倫理的配慮について口頭にて説明を行い, 同意を得た.

4. 研究結果

グローバル化によって, 経済成長が著しいアジア圏では現在, 「安価な労働力」としての受け入れは相当に困難になっている. また, 社会統合された「専門職」の受け入れ競争が「先進国」間で激化している. アジア圏からの「専門職」受け入れは, 送り出し国・受け入れ国の双方にとって利益になるばかりでなく, 不可逆的である. 問題は看護・介護分野において, 今回の受け入れが内発的な要請に基づくものではなく, 送り出し国からの提案により「上からあるいは外から」受動的に与えられたことである. 通例の実験のように期待通りの成果(この場合には国家試験への多数の合格)が得られなければ受け入れそのものが振り出しに戻ると考えられやすいが, 受け入れは, 仮に合格者がゼロでも協定の撤回を含む全面的改定に結び付くものではない. 受け入れの実施細則に変更はあっても, 受け入れ事業が中止されることはない.

前提; 送り出し国での看護師資格・施設での受け入れ

受け入れ先での研修内容の違い 労働実績と報酬とのズレの大小
労働力供給事情の差異

介護職

正規職員に準じた労働実績・看護師資格が奏功
正規職員となることに何の問題もない 社会統合課題の認識
追加的受け入れの見通しについての理解が進む
合格への強い期待感

看護職

労働実績と報酬とのズレ 純然たる負担感
合格の見通しに対する悲観論
「国際貢献」への理解度で, 成績の差異が生じる

参考文献

安里和晃 (2007) 「日比経済連携協定と外国人看護師・介護労働者の受け入れ」(第2章)

『介護・家事労働者の国際移動』久場嬉子 日本評論社 pp.83-92